

研究分野のキーワード：社会科教育，歴史教育，授業コミュニケーション，総合的学習 NIE

研究紹介

みなさんは、「社会科教育学」という言葉を聞いたことはありますか。学校の授業に「社会科」があります。高校では、「地歴科」「公民科」です。その時間に何を学ぶのか？なぜそれを学ばせるのか？また、それを学ぶときにどんな方法で学ぶと効果があるか？など、学校の先生たちがいつも考えていることを研究しています。それが、「社会科教育学」という研究です。

この研究を通じて、「歴史」の学び方など歴史を中心に研究すると歴史教育学、また、授業の方法として、ペアやグループでの学びに焦点をあてると授業コミュニケーション学となります。「学」なんてつけない方が自然ですが、体系的に考える意味で、日本では、〇〇学という言い方をよくします。その仕事をする人を「学者」と呼びます。

皆さんも、たとえば、過去の情報を選んで自分でそれらを組み立て、過去をわかりやすく書いたり話したりすることにチャレンジしている人は、「歴史学者」なのです。教科書をただ覚えようとしている人はだめですよ。自分の頭で考えること、それができるようになるために「新聞」も情報源として貴重です。私は、新聞を使った授業方法や新聞に親しむ活動を研究する日本エヌアイイーNIE学会にも入っています。だから私は、「NIE学者？」でもあります。

さて、人間は、戦争で子どもたちの命をたくさん失ってきました。どんな理由があっても戦争をしないことや人の命が何よりも大切なこと。そのために民主的な社会が必要なこと。その社会の中での個人の役割など。これらは、「社会科」の授業で考えなければならない重要なテーマです。どのような教材を使いどのような授業をおこなうとこのようなことを深く考え行動できる大人になるのか？それを考える研究を続けているとときどき、社会は本当に良い方向に向かっているのか？と思うときもあります。しかし、研究をする人がいる限り大丈夫といわれるように研究を続けようと思います。

この研究は、学校と関係が深いので、学校の授業を見学に行きます。小学校や中学校・高校にも行きます。児童・生徒の発言からヒントを得ることもあります。それをもとに教科書を書いたり、学校の先生たちに授業（講演やワークショップ）をすることもあります。Webで、「土屋武志」と検索すると私がどんな本を書いたり、研究をしているかもっとわかるので試して下さい。